

報道関係 各位

平成22年10月19日
独立行政法人
日本原子力研究開発機構
敦賀本部
(22-037)
(15時00分記者発表)

高速増殖原型炉もんじゅの炉内中継装置落下に係る状況について

高速増殖原型炉もんじゅは、燃料交換作業の片付け作業中に発生した炉内中継装置の落下について原因調査等を進めております。

炉内中継装置について、原子炉容器から引抜くことができずに作業を中断していますが、これまでの検討状況から、何らかの原因で炉内中継装置案内管接続部近傍が、原子炉容器の蓋であるしゃへいプラグの孔に差し込んでいる燃料出入孔スリーブの最下端部の狭隘になっている箇所と干渉している可能性があると考えています。

のことから、炉内中継装置の内面からの観察やしゃへいプラグ上部の予備孔を利用した外面からの観察の具体的な方策などを検討しています。

その後、観察などの確認結果を踏まえ、総合的に評価・検討を行い、炉内中継装置本体の引抜き作業について慎重に対応してまいります。

以上

【本件に関する問い合わせ先】
独立行政法人
日本原子力研究開発機構 敦賀本部
業務統括部 広報課長 森 将臣
電話：0770(21)5023（直通）

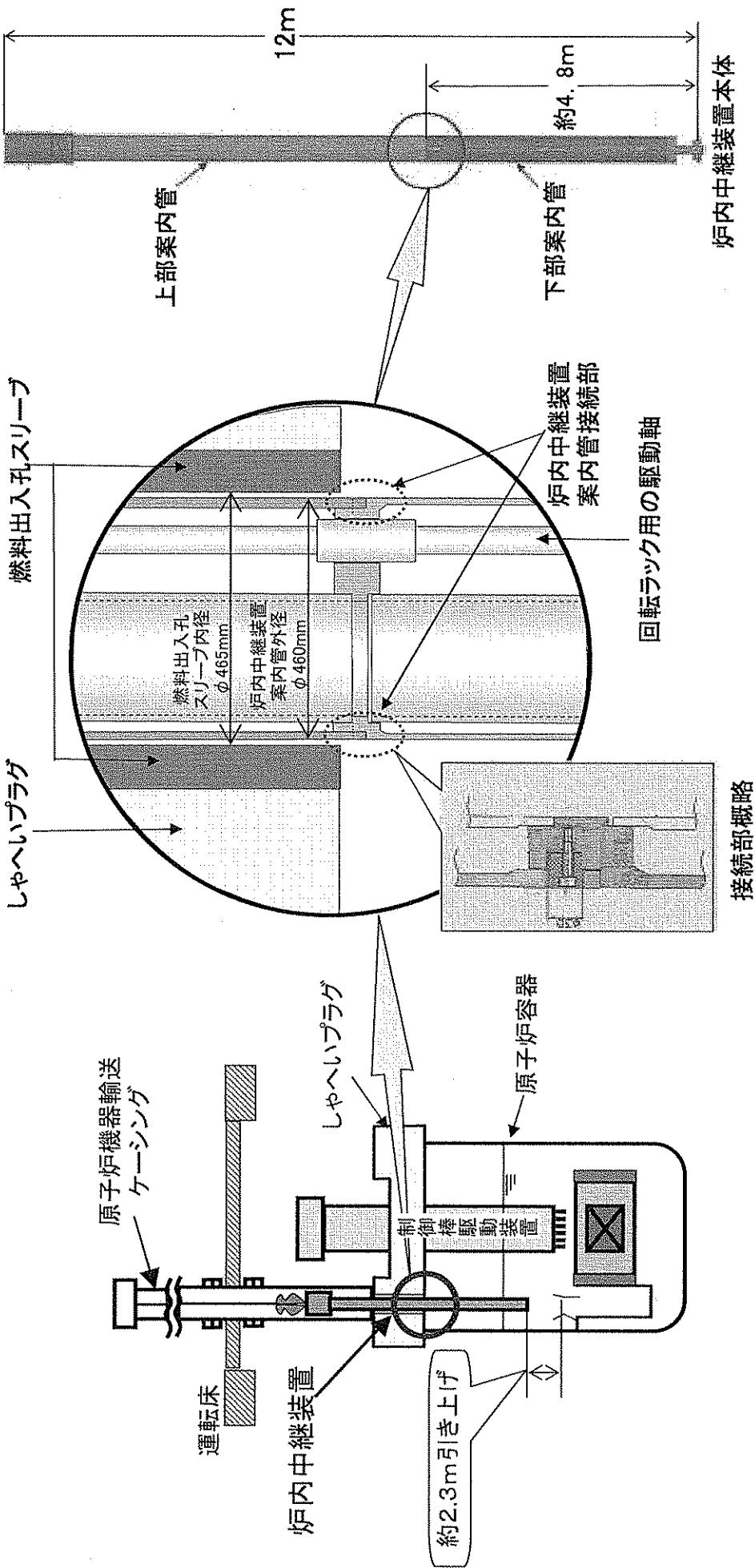
炉内中継装置引抜き作業の中断

1

落下防止対策を行った原子炉機器輸送ケーシングを用いて、10月13日に炉内中継装置の引抜き作業を実施。

約2.3m程度引き上げた時点で吊り荷重が増加(約3.7tの初期荷重にに対し警報設定値4.8tまで増加)することから引抜くことができず、作業を中断。

これまでの検討状況から、何らかの原因で、炉内中継装置案内管接続部近傍が、しゃへいプラグの孔に差し込んでいる燃料出入孔スリーブの最下端部の狭隘部に窄んでいる箇所*と干渉している可能性があると考えている。
*片側2.5mmの隙間

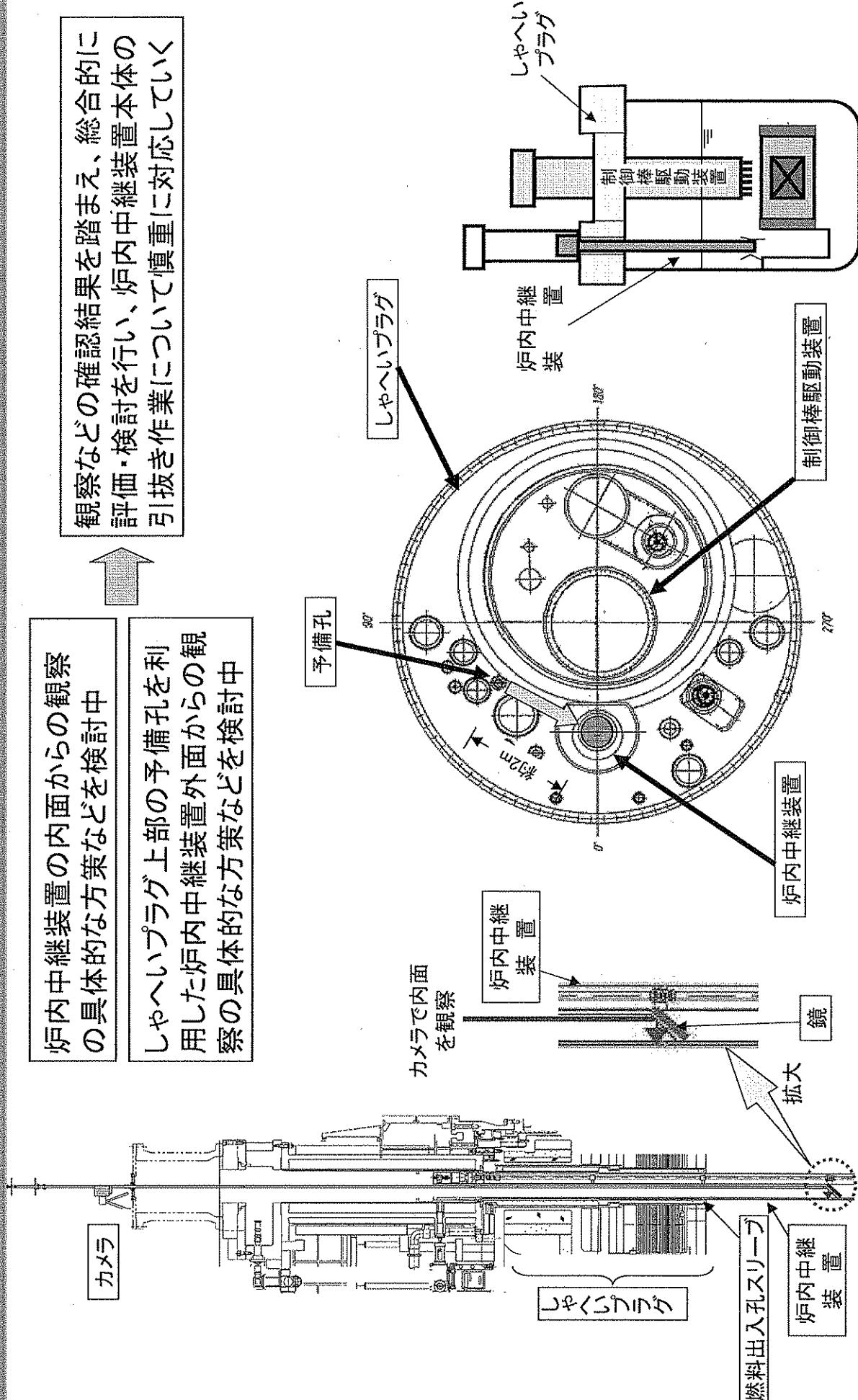


炉内中継装置における今後の対応

炉内中継装置の内面からの観察
の具体的な方策などを検討中

しゃへいプラグ上部の予備孔を利
用した炉内中継装置外面からの観
察の具体的な方策などを検討中

観察などの確認結果を踏まえ、総合的に
評価・検討を行い、炉内中継装置本体の
引抜き作業について慎重に対応していく



炉内中継装置内面からの観察
(イメージ図)

炉内中継装置外面からの観察
(原子炉容器のイメージ図)